



Coca-Cola zero® 2012
Suzuka 8 hours



2012 QTEL FIM世界耐久選手権シリーズ第3戦
“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース
第35回大会

MEDIA INFORMATION 2012.4.14

SUZUKA CIRCUIT



バイク好きはみんな集まれ!
バイク乗りが楽しむイベント
「MOTO MAX」も同時開催

www.8tai.com

鈴鹿8耐の最新情報はここでチェック!



2012 QTEL FIM Endurance World Championship Series
The 35th "Coca-Cola Zero" Suzuka 8hours Endurance Road Race

SUZUKA CIRCUIT

7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan
Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568



OFFICIAL SPONSOR



I N D E X

はじめに	1
開催概要	2
The Histories	3~5
さまざまなドラマを生み、歓喜と涙の舞台となった鈴鹿8耐	
日本人ライダー・チームによる8耐制覇、Hondaの10連覇	
記録で見る、鈴鹿8耐	
RACE HIGHLIGHT	6~7
“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第35回大会の見どころ	
鈴鹿4時間耐久ロードレース／今年も吹き荒れるか?! アジアン旋風!!	
SPECIAL TOPICS	8
“コカ・コーラ ゼロ”と鈴鹿8耐のパートナーシップは今年さらなる進化を遂げる!!	
Campaign NEWS	9~10
三世代にわたってご来場いただくために、もっと 8tail! キャンペーン	
EVENT TOPICS	11~18
35年の特別展示『情熱の8耐 ～ 語り継ぎたいこと ～』	
MOTO MAX2012	
鈴鹿8耐前夜祭～今年の前夜祭は花火があがる!	
日本最大級のバイクパレード／第14回バイクであいたいパレード2012開催概要	
4MINIパラダイス	
ゆうえんちモートピアも8耐一色! スペシャルライセンスで観戦無料!!	
コラボレーション.....	19
今年も8耐は、ご当地コラボが熱い!	
FAST FOOD TOPICS	20
8耐限定! ライダーコラボ特別メニュー	
MEDIA Collaboration	21
2012 TV PROGRAM／今年もスカパー! でノーカット完全生中継!	
AREA INFORMATION	22~23
オートキャンプ場のご案内	
天然温泉クア・ガーデン／ホテル宿泊プラン	
チケット・観戦ツアー.....	24~29
お問い合わせ	30



はじめに

“もっと8tai! もっとBike!”

～「日本最大級のバイクの祭典」鈴鹿8耐～

平素は、当社事業に多大なるご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今年もコカ・コーラ様のご協賛のもと、2012 QTEL FIM世界選手権シリーズ第3戦「コカ・コーラ ゼロ」鈴鹿8時間耐久ロードレースを開催させていただきます。

今年、鈴鹿8耐は、1978年の第1回大会以来、35回目となる記念の大会を迎えます。

これまでの長い歴史の中、数々の名勝負を繰り広げてきた鈴鹿8耐は、多くの「ドラマ」と「感動」でファンの皆様を魅了し続けて参りました。

ドラマチックなレースはもちろんのこと、鈴鹿8耐が「感動」的なレースと言われるのは、その独特な一体感にあります。真夏の8時間という過酷な状況の中、チームが一丸となって戦う姿は、見る者の心を奪い、多くの共感を生みます。そしてそこに集うファンの皆様が見守る中、夕闇のチェッカーを迎える瞬間にスタンドを包む一体感は、他のスポーツでは味わうことの出来ない、鈴鹿8耐ならではの魅力と言えるでしょう。

今年も皆様とともに「感動」を共有できればと存じます。

さて、今年は鈴鹿サーキットも開場50周年の記念の年となります。

3月の「鈴鹿サーキット50周年ファン感謝デー」を皮切りに、1年を通して様々な歴史イベントを実施して、往年のファンの皆様にお楽しみいただきたいと思います。

さらに50周年の記念事業として8耐直前の7月7日(土)にオープンする“モータースポーツ体感アトラクション”「レーシングシアター」などを中心に、遊園地「モトピア」エリアとモータースポーツの融合をさらに推し進め、往年のファンのお子様、そしてお孫様といった三世代のお客様に楽しんでいただけるモビリティテーマパークを目指して参ります。

これからの50年に向けた鈴鹿サーキットの進化にどうぞご期待ください。

最後になりますが、地元の皆様、メディアの皆様、FIM、MFJをはじめとする関係各位の皆様、そして1984年以来、長きにわたり、この鈴鹿8耐の歴史を共に作り上げていただきました、世界ナンバーワンブランドのコカ・コーラ様に厚くお礼申し上げます。



株式会社モビリティランド 取締役社長

大島裕志



2012 QTEL FIM Endurance World Championship Series
The 35th "Coca-Cola Zero" Suzuka 8hours Endurance Road Race

SUZUKA CIRCUIT
7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan
Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568



OFFICIAL SPONSOR



“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐開催概要

- (1) 大会名称 2012 QTEL FIM世界耐久選手権シリーズ第3戦
 “コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第35回大会
 (英文表記) 2012 QTEL FIM Endurance World Championship Series Round 3
 The 35th “Coca-Cola Zero” Suzuka 8hours Endurance Road Race
- 併催 2012 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦
 鈴鹿4時間耐久ロードレース(ST600)
- (2) 主催 財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)
 株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット
- (3) 後援 文部科学省、観光庁、三重県、鈴鹿市、鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会、
 一般社団法人 鈴鹿市観光協会、鈴鹿商工会議所
- (4) 大会冠協賛 コカ・コーラ ゼロ
- (5) テレビ放送 地上波：中部日本放送(CBC)
 衛星放送：スカパー! e2、スカパー! HD、スカパー!、
- (6) 会場 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース(1周/5.821km)
 〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL:059-378-1111(代)
- (7) 開催日程 2012年 7月26日(木)～7月29日(日)

7月 26日(木)	特別スポーツ走行
27日(金)	公式練習／公式予選
28日(土)	決勝出場チーム フリー走行
	TOP10トライアル(公式予選)
	“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐前夜祭
29日(日)	“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 決勝 11:30スタート／19:30ゴール

●鈴鹿4時間耐久ロードレース スケジュール

7月 26日(木)	特別スポーツ走行
27日(金)	公式予選
28日(土)	鈴鹿4時間耐久ロードレース 決勝
	8:30スタート／12:30ゴール

※スケジュールは変更になる場合があります。



2012 QTEL FIM Endurance World Championship Series
 The 35th “Coca-Cola Zero” Suzuka 8hours Endurance Road Race

SUZUKA CIRCUIT
 7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan
 Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568



OFFICIAL SPONSOR

2012 The Histories. 1

さまざまなドラマを生み、歓喜と涙の舞台となった “コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース

今年、鈴鹿サーキットは開場50周年。そして“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース(以下、8耐)は第35回大会を迎える。1978年の第1回大会以来、数々の名選手たちが歴史に残るドラマを繰り広げてきた。

記念すべき第1回大会を制したヨシムラ

1978年に第1回大会が開催された8耐は、Honda圧倒的の優位という周囲の予想を覆し、コンストラクターのヨシムラが優勝。第2回大会でHondaは優勝を遂げるが、第3回大会では再びヨシムラが旋風を巻き起こして優勝。8耐の創生期は、コンストラクターvsメーカーワークスの構図が色濃かった。



1980年鈴鹿8耐～第3回大会でも優勝したヨシムラ

元祖ミスター8耐 ワイン・ガードナー

1981年にはモリワキからワイン・ガードナーが登場。予選で驚異的なタイムを記録して一躍脚光を浴びる。当時をガードナーは『レースを真剣に志すならば、鈴鹿サーキットを走り込む必要があると森脇護さんに言われたんだ。8耐の前の全日本鈴鹿を走って、優勝していたから、8耐も自信があった。そして予選ではいいタイムが出せたのだけ



1981年鈴鹿8耐～ワイン・ガードナーの走り

ど、当時のモリワキ・マシンにはセルスターターがついていなくて、スタートでいくらキックしてもエンジンがかからず、最後尾まで落ちてしまったんだ。それで、そこから追いついてトップまで追いついたのだけど、転倒してしまい、この年の8耐は終わったんだ。でも、これがなければ、その後のレース人生は変わっていたかもしれないね』と振り返っている。ガードナーは、こうした活躍が認められて、その後にHondaのワークスライダーとなり、1987年に、世界グランプリの当時の最高峰である500ccクラスでチャンピオンを獲得している。

世界グランプリ・ライダーとなったガードナーは、その後も継続して8耐に出場。8耐が、世界グランプリ・ライダーへの登竜門であるのと同時に、世界グランプリ・ライダーが、8耐のタイトルを狙って大挙押し寄せるようになったのも、この頃からだ。

悲運のヒーロー 平忠彦

1985年、8耐を舞台に、世界が驚愕する出来事が起きた。そう、1983年シーズンを最後に現役を引退した“キング”ことケニー・ロバーツが、平忠彦とのペアで復活を遂げたのだ。平の人気はもちろんのことだが、ロバーツの走りをひと目見ようと、大観衆が鈴鹿サーキットに訪れた。その数、実に15万6000人。そしてロバーツと平は、ファンの期待に応えるように、予選、決勝で他を寄せ付けない走りを披露。だが、チェッカーまで残り約30分となったところで、平のマシンはトラブルに襲われ、ゴールライン手前でストップ。鈴鹿サーキット全体が、異様な雰囲気に包まれた。



1985年鈴鹿8耐～平忠彦、ケニー・ロバーツ

2012 The Histories.2

日本人ライダー・チームによる8耐制覇、Hondaの10連覇

この、平の8耐での敗退は、単なる敗退にとどまらなかった。ここから平の“悲運伝説”が始まった。世界グランプリでのケガで、監督として8耐に参戦した1987年には、マーチン・ウイマーとケビン・マギーによって優勝するが、ライダーとして参戦する平には、トラブルやアクシデントがつきまとい、85年の黄金コンビ以来、常に優勝候補の筆頭に挙げられながら、頂点に立つのはエディ・ローソンとのペアで優勝する1990年まで5年を要した。



1987年鈴鹿8耐～監督として参戦した平忠彦

悲願の日本人ペア優勝

第1回大会以来、注目されていたのが日本人ライダー・チームによる8耐制覇だった。台風の影響で6時間に短縮された第5回大会（1982年）で飯島茂雄、萩原紳治が優勝しているが、8時間フルタイムでのレースでは、日本人ライダー・チームが表彰台の中央に立つことはなかった。迎えた1997年、伊藤真一と宇川徹のペアが優勝し、いよいよ伝説の1ページを記録。だが、この年は荒れた天候で、伊藤と宇川は『天気が味方して勝てたと言われたくない。今度は、安定した天



1997年鈴鹿8耐～8耐で初の日本人ライダー・チームの優勝、そしてHondaの10連覇へ



2007年鈴鹿8耐～Hondaの連覇を打ち砕いたのはヨシムラだった

候な中で勝つ』と口をそろえた。そして翌1998年には、ドライ路面で伊藤と宇川ペアが優勝。まさに有言実行となったのである。また、1997年の伊藤と宇川の優勝を機に、Hondaは2006年まで8耐10連覇を達成。この間に優勝したライダーの中には、バレンティーノ・ロッシ、加藤大治郎などが含まれている。

トッププライベーターの台頭

2007年にHondaの11連覇を阻止したのが、大会を制したヨシムラである。第1回、第3回大会にワークスチームを撃破した名門プライベーターが歴史を繰り返した瞬間でもあった。この時の優勝ライダーは、加賀山就臣と秋吉耕佑。その後に秋吉はHondaへと移籍。ヨシムラ・スズキは、酒井大作、徳留和樹、青木宣篤により、2009年の第32回大会も制し、常勝チームとして、8耐の歴史に大きな足跡を残している。



2007年鈴鹿8耐～表彰台

2012 The Histories.3

記録で見る、鈴鹿8耐

コカ・コーラとのジョイントは1984年、第7回大会からのことで、1997年には“スプライト クール”鈴鹿8耐として、1998年と1999年は“スプライト”鈴鹿8耐として開催。現在の“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐となったのは、2008年の第31回大会から。



1998年鈴鹿8耐～“スプライト”鈴鹿8耐として開催された

1978年に始まった8耐だが、当時はインターナショナルレースとしての開催だった。世界耐久選手権シリーズの一戦としての開催は、1980年の第3回大会から。鈴鹿サーキットは、これまでにコースレイアウトの変更や路面改修を行っており、あくまでも数字上の記録となるが、最多ラップは、昨年の優勝チームである秋吉耕佑、伊藤真一、清成龍一のF.C.C. TSR Hondaが記録した217周。なお、2位のヨシムラ・スズキ（加賀山、ジョシュ・ウォータース、青木）、3位のMuSASHi RT HARC-PRO.（高橋巧、玉田誠、岡田忠之）も、同一の217周を記録した。

出場するマシンは、世界選手権となった1980年から1983年まではTT-F1（4ストローク1000cc以下）。1984年から1993年まではTT-F1の新レギュレーション（4ストローク750cc以下、2ストローク



2011年鈴鹿8耐～優勝したF.C.C. TSR Hondaが217周を記録

500cc以下）。1994年から2003年まではスーパーバイク（4ストローク4気筒750cc以下、3気筒900cc以下、2気筒1000cc以下）。2004年から2006年まではスーパーバイクの新レギュレーション（4ストローク1000cc以下。ワークスのみJSB仕様。他にスーパープロダクション、スーパーストック）。2007年は、8耐のみ参戦の国内チームはJSB仕様で4ストローク1000cc以下。他にスーパープロダクション、スーパーストック。2008年からはFormula EWC（4ストローク4気筒1000cc以下、2気筒1200cc以下。他にスーパーストック）となっている。

最多優勝回数は、宇川徹の5回。2005年に宇川がこの記録を樹立する以前は、ワイン・ガードナーの4回が最多だった。なお、伊藤真一と清成龍一が、現在は4回の優勝で、宇川の記録に迫っている。ポール・ポジションは、伊藤真一の7回（98年～99年、03年～06年、08年）が最多記録。2位がワイン・ガードナーの5回である。

史上最年少優勝は、2010年の中上貴晶で、18歳172日。しかし、この時の中上は、第3ライダーとして出場したものの決勝レースを走行していない。決勝レースを走ったライダーとしては、この時の中上のチームメイトである高橋巧の20歳247日。それまでの最年少優勝記録である1996年の芳賀紀行の21歳148日を上回った。一方、最年長優勝は、2011年の伊藤真一で、44歳236日である。



2010年鈴鹿8耐～表彰台



2012 RACE HIGHLIGHT.1

“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第35回大会 ヤマハそしてヨシムラスズキがパワーアップ 迎え撃つHonda勢

過去に、10連覇を達成したHondaだが、今年は、昨年の優勝チームであるF.C.C. TSR Hondaと、一昨年の勝者で、表彰台の常連になっているMuSASHi RT HARC-PRO.が中心となる。そのF.C.C. TSR Hondaのライダーは、全日本JSB1000で2年連続チャンピオン(2010年・2011年)となった秋吉耕佑が、そしてMuSASHi RT HARC-PRO.は高橋巧が予定されており、さらにスーパーバイク世界選手権で活躍するジョナサン・レイ、青山博一などが予定されている。

一方、第1回大会での優勝をはじめ、これまでに4度の優勝経験を持つヨシムラも参戦を予定しており、本戦でのチーム体制がどのようなものになるのか注目される。世界に戦いの場を広げているヨシムラだけに、周囲を驚かせる新人またはビッグネームの起用もあるかもしれない。



また、昨年の大会で、世界耐久選手権を戦っているマシンを駆り、TOP10トライアルでは2番手タイムを記録して観客を沸かせたヤマハの中須賀克行が、早くも参戦を表明した。今年もチームはヤマハオーストリアレーシングチームのMONSTER Energy YAMAHA - YARTに変わりはないが、チームには、昨年のイギリススーパーバイク選手権でチャンピオンを獲得したトニー・ヒルが加わり、チームとしてのポテンシャルを上げて8耐制覇に挑む。

さらに、2004年の全日本ST600チャンピオンで、2006年に伊藤真一とのコンビで優勝している辻村猛が、野田弘樹のパートナーして復帰。マシンは、元世界グランプリメカニックで、全日本ロードレースJSB1000での伊藤真一の快進撃を支えた名エンジニア小原斉が手がけるだけに、要注意チームとなる。

なお、今年の公開合同テストは、第1回が6月7日(木)、第2回を7月3日(火)、4日(水)に予定しており、8耐本番当日に向けた調整、またエントリー状況などの全貌が明らかになるはずだ。



2011年鈴鹿8耐～トップ争いの3台



2011年鈴鹿8耐～中須賀克行の走り



2011年鈴鹿8耐～表彰台

2012 RACE HIGHLIGHT.2

鈴鹿4時間耐久ロードレース 今年も吹き荒れるか?! アジアン旋風!!

“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース決勝前日の土曜日に開催されるアマチュアライダーの祭典『鈴鹿4時間耐久ロードレース』。鈴鹿・近畿選手権シリーズの一戦として、ST600マシンでの戦いになるが、こちらは一台のマシンを二人のライダーが乗り継いで4時間を走破するもので、レース中でのタイヤ交換は認められていない。

その鈴鹿4耐で、昨年は大きな出来事が起きた。それは、Boon Siew Honda Racing Malaysia(マシンはHonda CBR600RR)のアズラン・シャー・カマルザマンとエミール・フィルダウス・ハサンが、チェッカーまで残り5分となったところでトップに立ち、そのまま優勝を遂げたのだ。

海外組がこの鈴鹿4耐に参加すること自体が初めてであり、外人ライダーがこの鈴鹿4耐を制したのも史上初の出来事。この二人のマレーシア人ライダーの活躍もそうだが、全日本ロードレースST600でも、今年の開戦戦ツインリンクもてぎでタイ人ライダーのチャランポー・ポラマイとデチャ・クライサーが1-2フィニッシュを達成する大活躍を演じるなど、アジアのモーターサイクリススポーツのレベルは飛躍的な進歩を遂げている。果たして今年も、鈴鹿4耐にアジアン旋風が吹き荒れるのか。アジア中の注目が集まるレースとなる。



2011年鈴鹿4耐～アズラン・シャー・カマルザマンの走り



2011年鈴鹿4耐



Coca-Cola zero® 2012 Suzuka 8 hours



2012 SPECIAL TOPICS.1

“コカ・コーラ ゼロ”と鈴鹿8耐のパートナーシップは今年さらなる進化を遂げる!!

Honda CBR1000RRが、“コカ・コーラ ゼロ”カラーとなって登場!!



2007年から大会タイトルを“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐として開催し6年目となる今年の鈴鹿8耐では、Honda CBR1000RRをプロモーションバイクとし、サーキットはもちろん、あらゆる場面で登場。“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐をPRしていきます。

グランドスタンドV2席は、スタートの興奮、感動のフィナーレ、そしてコカ・コーラの魅力をたっぷり味わえる!!



スタートやゴールの感動はもちろん。コカ・コーラ製品の決勝8時間飲み放題に加え、V2席全員に“コカ・コーラ ゼロ”オリジナル応援タオルプレゼントを実施。



※タオルのデザインはイメージです。
変更となる場合がございます。

コカ・コーラ製品 飲み放題について

7月29日(日)決勝レース中 [8時間限定 11:30~19:30]

※コカ・コーラ製品は一部に限定させていただきます。

※ご希望の商品が品切れになる場合もございます。

“コカ・コーラ ゼロ”イベントブースが大胆に進化!!



8耐でもっとも賑わうイベントスペース『GPスクエア』の象徴である“コカ・コーラ ゼロ”イベントブース。今年のイベントブースは、メインステージに加え、オリジナルグッズ販売コーナー「COKE STORE」とドリンク販売コーナーが一体となって登場。

ステージでは、ゲストトークショーや“コカ・コーラ ゼロ”サーキットクイーン撮影会をはじめ、様々なイベントが実施され、GPスクエアの一大拠点となります。



“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐オリジナル飲料自動販売機が登場

2008年に初登場した、“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐オリジナルカラーリングの飲料自動販売機が今年も新たなデザインで登場!! 東海地区を中心にあなたの街角にも登場してくるぞ!
この自動販売機を見かけたらコカ・コーラ ゼロを飲みながら鈴鹿8耐に想いを馳せよう!!

“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐オリジナルカラーリング自販機

※写真はすべてイメージです。

※イベント内容は変更される場合があります。



2012 QTEL FIM Endurance World Championship Series
The 35th "Coca-Cola Zero" Suzuka 8hours Endurance Road Race

SUZUKA CIRCUIT

7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan
Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568



OFFICIAL SPONSOR